

インタビュー①

新規ビジネスの育成・立ち上げに注力

—株券電子化、XBRL、アジア金融分野の3つが柱—

金融分野の新規ビジネスの創出に取り組む金融ビジネス事業本部。株券ペーパーレス化等の証券業界戦略ビジネス、XBRLに関するビジネス発掘、アジア金融分野ビジネス発掘の3本柱を軸にした最近の状況を、金融戦略ビジネス推進室の平岩孝一郎室長にうかがった。

金融ビジネス事業本部のビジネス領域の拡大を目指す

—はじめに、金融戦略ビジネス推進室の主要ミッションからお聞かせください。

平岩 私ども金融ビジネス事業本部・金融戦略ビジネス推進室は、2004年4月、NTTデータの金融ビジネス事業本部がカバーする領域をさらに広げることを目的に設立された戦略組織です。主要ミッションは、中長期的な視点から、一歩先を見つめて金融ITに関する新規ビジネスのニーズとシーズを見つけ、育て（インキュベーション）、立ち上げる（ビジネス企画）ことと、NTTデータの大きな強みである金融インフラの構築実績をベースに海外、特にアジアの金融分野に関するビジネスを発掘することです。

証券電子化、XBRL、アジア金融分野の3本柱に注力

—どのような新規ビジネス案件に取り組んでいますか。

平岩 金融関連の新規ビジネスは、今後証券分野が中心になるであろうという予測のもと、かなり資金・証

券系に軸足を置いた取組みを行ってきています。具体的には大きく3つの分野をターゲットとした取組みを行っています。1つ目は、株券電子化（ペーパーレス化）を切り口にした証券関連ビジネスの発掘、2つ目が各種財務報告用の情報を作成・流通・再利用できるように標準化されたXMLベースの言語であるXBRL（eXtensible Business Reporting Language）を利用したビジネスの展開、3つ目が中国・ベトナムを中心としたアジアの金融ITインフラに関するビジネス発掘です。

—証券関連ビジネス発掘として、具体的にはどのような取組みがあげられますか。

平岩 2009年（平成21年）1月には株券が全面的に電子化されます。これによりわが国の国債、社債、投信、株式のペーパーレス化が完了します。ただ、株式の電子化は関係者が非常に多く、影響が大きいことから、準備・対応等は容易でないと思像されます。株券電子化に関して私どもは、昨春、日本証券業協会から株券電子化に伴う加盟証券会社の電子化対応状況に関する調査の委託を



(株)NTTデータ
金融ビジネス事業本部
金融戦略ビジネス推進室長
平岩 孝一郎氏

受けました。こういった調査結果を踏まえ、アウトソーシングビジネスの企画・検討や「OUSIA」という名寄せソリューションをベースにした口座管理のための仕組みの売込みを進めています。株券電子化対応は証券会社のみならず銀行等でも関心が高く、そのためベンダーを巻き込むかたちで既存の業界勢力図に変化が生じようとしています。こうした動きを積極的にビジネスチャンスと捉えていかなければならないと考えています。以上のほか証券関連ビジ

ネスの推進では、証券取引所の新規システム対応コンサルティングや証券業界の新規戦略システム企画、証券共同ネットワークシステムの構築プロジェクトなどにも取り組んでいます。

XBRLの特徴を活かし、広範なビジネスへの適用を目指す

——XBRLについては、国税電子申告・納税システム（e-TAX）と地方税ポータルシステム（eLTAX）ですでに一部利用されているほか、日銀での利用実験や金融庁の有価証券報告書等の電子開示システム（EDINET）での採用に向けた動きが加速していますね…。

平岩 XBRLを利用した金融庁のEDINET再構築につきましては、私どもが仕様書作成等に関するコンサルティング業務の委託を受けましたが、昨春から始まった実際の再構築作業においても引き続きPJMOの役割を担わせて頂いています。2008年4月に新EDINETがスタートしますと、過去に公表された有価証券報告書も新規分と同様にXBRLに変換したいとのニーズも増え、さらにそれら変換データをベースに高度分析も行うといったビジネスも出てくると考えられます。また、XBRLは財務情報の電子化に寄与するだけでなく、その特徴を上手く活かすことで広範なビジネスに適用することができると考えています。例えば、①有価証券目論見書のようなPDFで提供されている文書データをXBRL化することにより、複数の目論見書の特定項目を横断的に閲覧することを

可能とするほか、②企業内部の多岐にわたるシステムから関連データのみをXBRL形式に変換し取りだし、これらを集約することで素早く重要情報（当日損益等）を把握可能にする、さらに③銀行の中小企業向け貸出の効率化に向けXBRL化された国税申告用の財務申告書を高度利用する、といった具合です。これらについては個々にプロジェクト化し、具体的なビジネス化を進めています。さらに、NTTデータ経営研究所とも連携し、日本版SOX法に関連した内部統制強化に向けたXBRLの活用に関しても取り組んでいます。

中国でのXBRLビジネスと、ベトナムの金融インフラのSIに注力

——アジアでの金融ビジネスの展開として、具体的にどのような取り組みを行っていますか。

平岩 新しいアイデアを採り入れた競争優位のあるソリューションでなければ、また人的な交流もなければ中国市場にはなかなか食い込めないと考えています。NTTデータは中国人民銀行や郵貯のシステム構築に参加した実績を持っています。これまでに培ってきた人的繋がりを活かしつつ、まずは日本でも先端的な地位にあるXBRLを活用したビジネス発掘に注力しています。このため、XBRLの普及・啓蒙のためのコンソーシアム“XBRL China”発足に向けた活動を支援しているほか、中国の財務会計ソフト大手との協業も進めています。中国ではIFRS（国際会計基準）採用の動きもあり、2007

年は中国においてもXBRLの高度利用が関心をもたれるのではないかと予想しています。

一方、当推進室発足時から財務省の国際通貨研究所と連携してベトナムにおける国債決済システム改革に関する技術的アドバイスをを行っています。債券市場整備に向けた日本政府の技術協力に参画することで、ベトナム財政省や証券取引委員会、さらにはベトナムの証券会社と強いコネクションを築きつつあります。こういった強みを活かし、ベトナムにおける証券業界向けまたは中央銀行向け新規ビジネスの検討・企画を行っています。特に、ベトナムは株式市場が活性化しており、証券会社数も急増していることから、バックオフィス用システムの共同センターをはじめとする証券業界向け新規ビジネスについては大いに期待できると思います。

新規ビジネスの芽を今後も積極的に育成

——最後に、今後のビジネスの抱負をお聞かせください。

平岩 推進室設立時から手掛けてきた新規ビジネスの芽が育って、ここに来て漸く実を結びつつあります。今後も新規ビジネスの芽を積極的に育成するとともに、海外ビジネスについては、特にアジアにおけるITのコーディネーター機能の役割を果たしていければと考えています。

——本日は有難うございました。

（聞き手・構成：編集長 河西義人）